
赤 潮 情 報（定期赤潮調査結果）

鹿児島県水産技術開発センター
平成 18 年 8 月 2 日

八 代 海 No.3

[1] 8月1日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

全調査点で赤潮による着色域は確認されませんでした。

有害種については、シャトネラ マリーナを獅子島北東沖、桂島西沖において1細胞/ml確認しましたが、その他の有害種については、確認されませんでした。

(2) 海 況

表層水温は八代海全域で28.4～31.6℃で同年同時期より高め、塩分は14.8～23.3で同年同時期よりかなり低め、透明度は同年同時期よりやや高めとなっています。

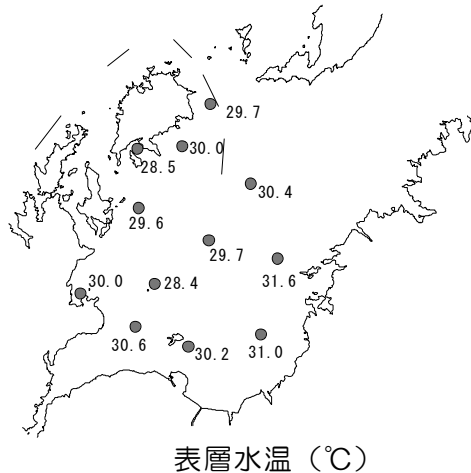
水 温（表層）：平均 30.0℃ (27.4℃)
塩 分（表層）：平均 19.3 (31.6)
透明度 : 平均 8.7m (8.0m)

()はH元～H17年8月の平均値（同平年値）

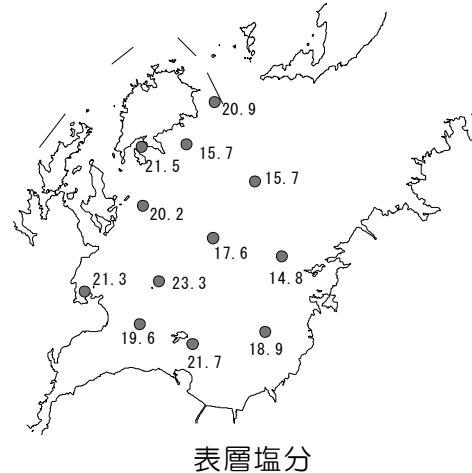
[2] 今後の赤潮発生の予想

2カ所の調査点でシャトネラ マリーナが確認されていますが、現時点では細胞数が少ない状況ですので、今後しばらくの間は、有害種による赤潮形成の可能性は低いと考えられます。

ただし、ここ数年、8月にシャトネラ属、コックロディニウム ポリクリコイデスによる赤潮が発生していますので、定期的に検鏡等によるプランクトンの監視が必要です。



表層水温 (°C)



表層塩分



シャトネラ マリーナ細胞数 (cells/ml)

※ 0～4mくらいに塩分濃度が低い層があり、それ以下の層と混合していない状況です。その為、塩分濃度はかなり低く、表層水温は高めになっていると思われます。